

設楽発掘通信

No.75
令和4年
12月号

滝瀬遺跡の発掘調査を開始しました

令和四年一月より、滝瀬遺跡の発掘調査に着手しました。

滝瀬遺跡は設楽町八橋字タキセに所在し、これまでに二〇一五年度、二〇一六年度、二〇一八年度に発掘調査を行なってきました。二〇一八年度の発掘調査において、縄文時代草創期～早期の竪穴建物跡が検出されたことが新聞にも掲載されました。これはつい最近のことのようにも思えます。

今回は、この二〇一八年度から四年ぶりの発掘調査となります。周辺ではダム工事に伴う関連工事も進んでおり、これまでの発掘調査の写真を見返すと、周辺の景色も大きく変わってきたこともわかります。

今年度の調査区は、滝瀬遺跡の中でも境川沿いの最も下流側、かつ川沿いの2022区(図一)です。調査区の標高も低く(四一八m)、先述の2018B区で縄文時代草創期～早期の竪穴建物跡が検出された地点(四三七m)とは、約二〇mの差があります。

現在は、県道設楽根羽線に近い部分の遺構を検出中で、石器や土器が出土はじめました。やはり調査区の中でも道路側から川側に向かって下る傾斜があり(図二)、全体の傾斜は北東から南西に向かって下っています。現在出土している石器や土器も標高の高い北東の斜面から流れてきた可能性があります。

調査の進展に伴い、今後も情報をお知らせする予定です。どうかよろしくお願いたします。

(鈴木恵介)



図2 2022年度発掘調査の様子

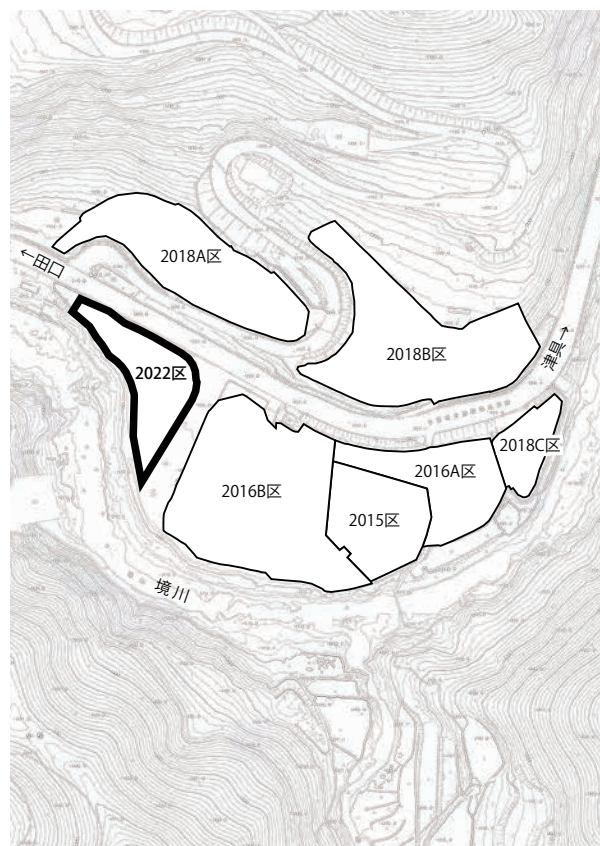


図1 滝瀬遺跡の各年度調査区の位置 (S=1/3000)

下延坂遺跡の発掘調査

下延坂遺跡の発掘調査は前回の報告から大きく進展し、十一月までに22A区全体の調査と、22B区の一部の調査が完了しました(図三)。その成果の一部は一月二十九日に行われた下延坂遺跡の地元説明会で報告させていただきました(図四)。お越しいただいた方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。その後、一月二十四日には遺跡の空中撮影を行い、22B区一面の撮影ができました(図五)。

遺跡の北東端である22A区の調査では当初出土遺物から弥生時代の遺構を想定していましたが、その後の調査で22A区の大部分が棚田の造成で削平されていることがわかり、弥生時代以前の遺構・遺物はないものの、中世の生活面は確認されました(図六)。一方、22B区では狭い範囲に様々な時期の遺構が集中して数多く出土する22B区北側と(図七・八)、遺物を伴う中世の耕作域が広がる22B区南側では様相が異なります。

22B区北側では、縄文時代後・晩期(図九・一〇)から中世の半ばまでと幅広い時代の遺構が存在していることがわかりました。このうち、弥生時代から中世までの遺構は現在残る調査面まで最近の造成工事で削平されたため、中世の竪穴状遺構や包含層などわずかなものしか残っていません。一方、縄文時代後・晩期の遺構は残りがよく、竪穴建物跡と思われる遺構が3基以上見つかっています。

22B区の南側は当初縄文時代中期後半の土器片等が確認されたため、当初はその時代の遺構が推定されていましたが、調査を進めていく中で、山茶碗など中世の遺物が出土しはじめ、最終的には畑と思われる畝状の遺構が検出されました。どうやら中世の耕作域だったと思われる、縄文時代中期の土器片は耕作の中で混入してしまったものと考えられます(図一一)。

今後の調査の予定としては22B区全体の下層の調査と、22C区の調査を予定しております。ご報告をお待ちください。(渡邊 峻)

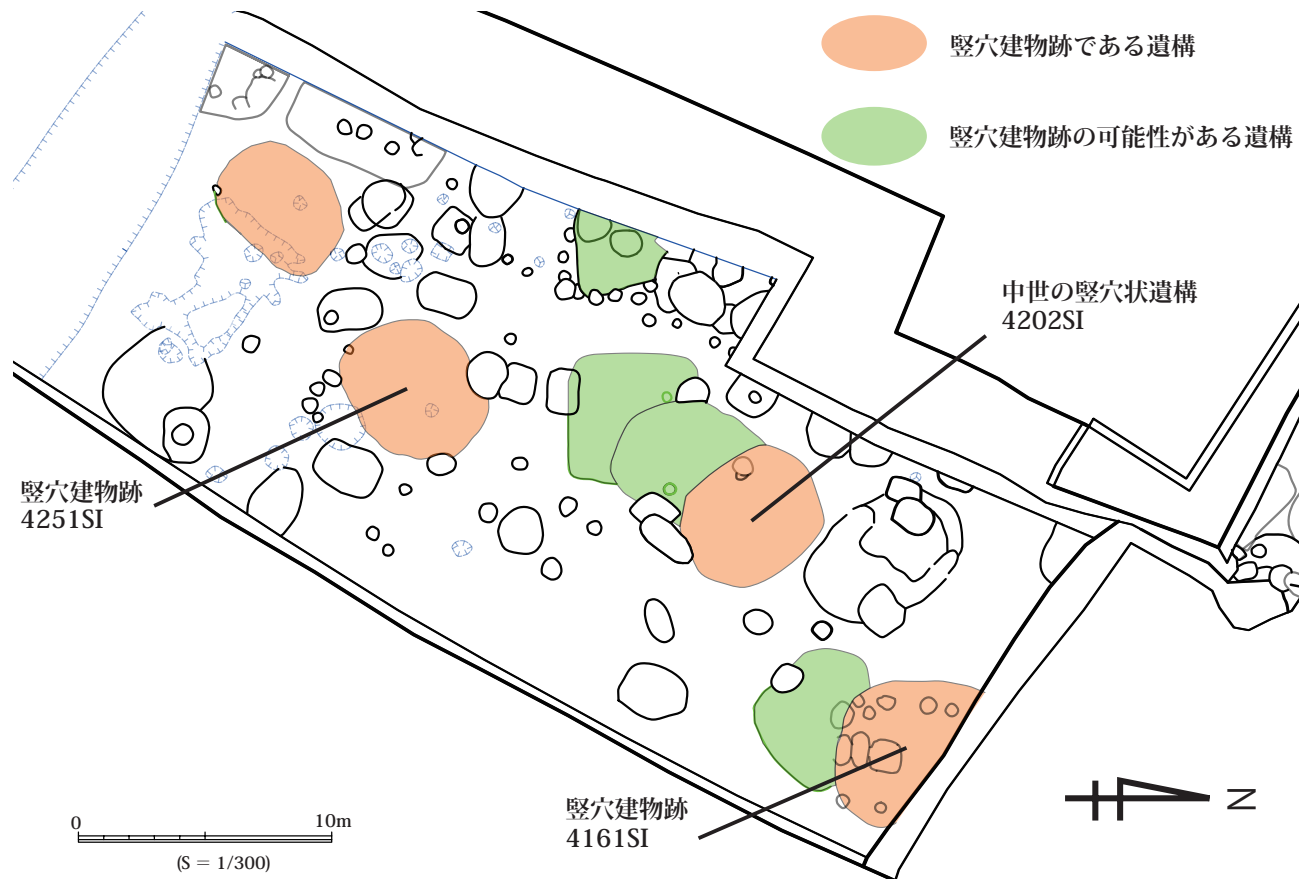


図7 下延坂遺跡 22B区遺構集中地点



図10 下延坂遺跡 22B区 竪穴建物跡 4251SI (東より)



図8 下延坂遺跡 22B区遺構集中地点 空撮(北より)



図11 下延坂遺跡 22B区 南側完掘状況(北より)



図9 下延坂遺跡 22B区 竪穴建物跡 4161SI (東より)



図5 下延坂遺跡空中撮影(北東より)



図3 下延坂遺跡全体図



図6 下延坂遺跡 22A区完掘状況(南東より)



図4 下延坂遺跡地元説明会様子

大畑遺跡発掘調査が始まりました

大畑遺跡の発掘調査を一〇月中旬から開始しました。大畑遺跡は二〇一七年に一度調査が行われており、竪穴建物跡や陥とし穴等の遺構が調査され、縄文時代中期後半から後期（四、五〇〇～三、五〇〇年前）が主体となっていました。今回の調査は前回調査した調査区から北東に延長された箇所を22A区、前回調査ができなかった鉄塔の跡地を22B区として調査を行なっています（図一一）。前回の調査の続きということもあり、縄文時代中期後半～後期ごろの遺構・遺物の発見が想定されます。すでに22B区の調査が終了していますので、簡単ですが成果をご紹介します。

22B区では貯蔵穴が見つかりました（図一二）。大きさは長径約二m、深さ約一mあり、何度か掘り起こされている様子が確認できました。また、縄文時代早期末から前期初頭頃の土器がまとまって出土しました（図一三）。谷の斜面地から出土したため、斜面の上にある平地部分に古い段階の遺構・遺物が展開していると考えられます。

（社本有弥）

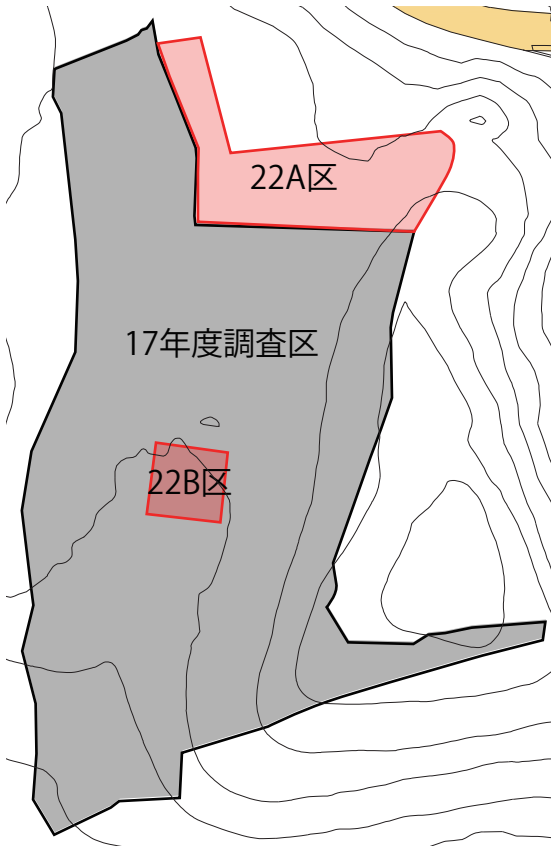


図 11 大畑遺跡全体図 【1/2,000】



図 12 大型の貯蔵穴



図 13 遺物出土状況

設楽発掘通信

No.75

令和4年12月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県富田市新ヶ須野方802の24

電話 (0567) 67-4161 【管理課】4163 【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力

株式会社アコード

